雑誌月間に寄せて

国際ロータリー 第2660地区
ガバナー 岡部泰鑑

4月はロータリー雑誌月間です。

ロータリーの特別月間は、8月は会員増強および拡大月間、9月は新世代のための月間、10月は職業奉仕月間および米山月間、11月はロータリー財団月間、12月は家族月間、1月はロータリー理解推進月間、2月は世界理解月間、3月は識字率向上月間、4月が雑誌月間、6月はロータリー親睦活動月間となっています。4月が何故、雑誌月間なのでしょうか…。「ロータリー活動と雑誌との関わりは何なのでしょう」という疑問を抱くロータリアンは多いのではないでしょうか。さらに4月はRIの公式機関誌である「THE ROTARIAN」の購読と世界31の地域雑誌の購読および活用促進に役立つプログラムを実施するように定められた月間でもあります。それはロータリーの情報の普及を図ることをも目的としています。地域内クラブは、この月間中に雑誌に関するプログラムを実施することを要請されています。

ここで公式機関誌である「THE ROTARIAN」の歴史を見てみましょう。

1911年1月25日チェスリー・ペリー国際ロータリー初代事務総長によって創刊された「ザ・ナショナル・ロータリアン」（1912年に「ザ・ロータリアン」に改称）の発行日を記念して、当初1月25日を含む1週間が雑誌週間と決められていました。当初の出版費は、ロサンゼルスの「カリフォルニア・ダチョウの羽毛を直接あなたに」という仲介業者を通さない販売をうたい文句にした会社など4社の広告費で賄いました。

6ヶ月後、各ＲＣからのニュースを扱う「クラブ会長のコーナー」などを設け、広告も20件以上になり、チェスリー・ペリー編集長も継続出版に自信を得、購読料として年間25セントを徴収することとなりました。

1912年米国ミネソタ州ダルースで開催された第3回RI国際大会で今日の名称「ザ・ロータリアン＝THE ROTARIAN」に改称され、当時のグレン・ミードRI会長は「われわれの雑誌は、誰でも読む興味を抱かせる一般の出来事などの記事も掲載すべきだ」と、早くも広報誌の役割を期待していたことがうかがえます。

90年後の今も“実験”は依然として進行中です。当初12ページのタブロイド判が今では最新デジタル・テクノロジーを駆使した56～64ページの月刊誌となっているのです。購読者も当初は、米国とカナダを合わせて3,000人でしたが、今は約50万人の人達に購読されています。

「ザ・ロータリアン」は、英語だけの出版ですが、地域のクラブプロジェクトに関心を持つロータリアンのために、22の言語で出版されている30の地域雑誌がそれぞれの地域をカバーしています。

また「THE ROTARIAN」の優れた論説には定評があります。17人のノーベル賞受賞者と19人のピュリツァー賞受賞者が寄稿していますし、個々のクラブ会員向けの唯一のロータリー出版物で、RI政策、プログラム、理事会決定事項など公式のニュースを掲載しています。

＜以上、ロータリーの友2003年4月号より＞

次に2010年手続要覧の「ロータリークラブ定款」第14条ロータリーの雑誌において、各会員は会員身分を保持する限りRIの機関雑誌またはRI理事会から本クラブに対して承認並びに指定されている地域的なロータリー雑誌（日本では「ロータリーの友」）を購読しなければならないとされています。

なお、この地域雑誌として認定されるための要件および雑誌月間が1月から4月になった経緯については大谷パスト・ガバナーがガバナー月信2010.VOL.10「雑誌月間によせて」の記事に記載されていますので、興味のある方はご一読下さい。

この雑誌月間に改めて「ロータリーの友」を読破するのもいい機会ではないでしょうか。